

中学校 社会

中学校公民的分野において、社会的なものの見方や考え方を育成するための指導法の研究
ーベン図の活用、意見交流、合理的意志決定をする活動をととしてー

むつ市立大平中学校 教諭 葛西 和人

要 旨

本研究は、公民的分野において、社会的なものの見方や考え方を育成するために、ベン図を活用して自分の意見を整理し、意見交流を経て、理由や根拠を基に合理的意志決定を行う活動が有効であることを、実践的に検証したものである。その結果、ベン図を活用して自分の意見を整理することで意見交流が活発になり、理由や根拠を示した上で合理的意志決定をし、回数を重ねることで社会的なものの見方や考え方を働かせることができるようになった。

キーワード：中学校 公民的分野 ベン図 意見交流 合理的意志決定

I 主題設定の理由

文部科学省中学校学習指導要領解説社会編(2008)において、公民的分野の目標(4)では、「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」とある。また、社会科改訂の要点では、公民的分野全体をととして「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ観点から、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりするなどの言語活動を充実させる」としている。つまり、現代の社会的事象が多様な側面をもつとともに、相互に関連し合って絶えず変化していることから多面的・多角的に考察することが必要であるとしている。そして学習の過程で考えたことや活動したことについて、どのような資料を収集し、何を基準として資料を選択し、それをういてどのようなことを考え、どのような根拠で結論を導き出したかを、具体的、論理的に第三者に分かりやすく説明できる力を付けることを目指している。

本校生徒は、様々な社会的事象について、自分の判断基準による安易な意思決定はできるものの、意思決定した理由や根拠を具体的に説明することを苦手としている。また、自分の意見を組み立てたり論理付けたりすることも苦手で、自分の意見と異なる意見を比較・関連付けて思考・判断する力が十分に備わっておらず、社会的なものの見方や考え方が身に付いているとは言えないのが現状である。そこで、自分の意見を整理したり、自分の意見と異なる意見を比較したりするために、思考ツールを用いることとする。生徒はこれまで、思考ツールを使ったことがないため、シンプルで使い方が分かりやすく、共通点や相違点を明らかにすることができる思考ツールとして、ベン図を使用することにした。ベン図を使って自分の意見を整理できれば、グループでの意見交流も活発に行うことができるのではないかと考える。

本研究では、公民的分野の授業において、様々な社会的事象についてベン図を活用して自分の意見を整理し、意見交流を経て、理由や根拠を明確にして合理的意志決定をさせることで、社会的なものの見方や考え方が育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究目標

中学校公民的分野において、社会的なものの見方や考え方を育成するために、ベン図を活用して自分の意見を整理し、意見交流を経て、理由や根拠を基に合理的意志決定を行う活動が有効であることを、実践をととして明らかにする。

Ⅲ 研究仮説

中学校公民的分野において、ベン図を活用して自分の意見を整理し、意見交流を経て、理由や根拠を基に合理的意志決定をする活動を繰り返し行うことで、社会的なものの見方や考え方が育成できるであろう。

Ⅳ 研究の実際とその考察

1 研究における基本的な考え方

(1) 「社会的なものの見方や考え方」とは

中学校学習指導要領解説社会編では、公民的分野における「現代社会についての見方や考え方」を「現代の社会的事象を読み解くときの概念的枠組み」とし、公民的分野の学習全般をとおして理解を深めさせていくとしている。

北（1996）は「社会的なものの見方や考え方」について、社会的事象を多面的に見たり考えたりする、社会的事象を公正に見たり考えたりする、社会的事象を多角的に見たり考えたりする、社会的事象を自分の生活や自分自身との関わりで見たり考えたりするなど、10項目を挙げている。

本研究では、「社会的なものの見方や考え方」を、普段の生活や学習の中での課題を解決するために、様々な立場や資料を基に、客観的に考えたり判断したりすることとする。このような見方や考え方は、意図的に授業の中で取り扱っていくことで身に付いていくと考える。具体的には、社会生活で考えられる事例を基に自分の意見を整理し、意見交流を経て、合理的意思決定を行う活動を繰り返し行うことで、育成したいと考える。

(2) 「合理的意志決定」とは

小原（1994）は、「意思決定」を「目的・目標を達成するために考えられる実行可能なすべての行動案（手段・方法）、あるいは、問題を解決するために考えられるすべての解決策の中から、より望ましいものを選択・決定することのできる能力」としている。

岩田・米田（2009）は、「生徒が社会にでたときに本当に必要なことは、それまでに学んだことを活用して、判断することである。その判断は思いつきやその場限りの判断であってはならない。この未来予測能力および合理的意志決定能力こそ、生きる力の中核をなす」としている。

本研究での「合理的意志決定」は、生徒の実生活での様々な経験と授業での学習内容を踏まえて、明確な理由や根拠を基にした決定とする。

(3) 研究内容

合理的意思決定に向かうためにまず、ベン図を用いて自分の意見を整理する。そして、整理した意見を基にグループで意見交流し、その中で、自分の意見との共通点や相違点を見出したり、さらに考えを深めたりした上で、明確な理由や根拠を基にした合理的意志決定を行う。

以下の三つの題材で合理的意志決定を行い、社会的なものの見方や考え方が育成できるかどうかを検証していきたい。

- ①マンションの騒音問題の解決策について考えよう（現代社会の見方や考え方）
- ②マンションの防犯カメラの設置について考えよう（これからの人権保障）
- ③むつ市のまちづくりのアイデアを考えよう（地方自治と私たち）

(4) 検証方法

ア ベン図の活用が、自分の意見を整理するのに効果的であったかどうかの検証

三つの題材を取り扱う際は、最初にベン図を用いて自分の意見を整理する活動を取り入れる。そして、各題材の合理的意志決定の後に振り返りのアンケート調査を行い、ベン図が自分の意見を整理する手立てとして効果的であったかどうか人数の変容を分析する。

イ ベン図の活用が、意見交流に効果的であったかどうかの検証

ベン図を用いて自分の意見を整理した後、意見交流によって自分の意見との共通点や相違点を見出したり、さらに自分の考えを深めたりする活動を取り入れる。そして、各題材の合理的意志決定の後に振り返りのアンケート調査を行い、ベン図が意見交流を活発にする手立てとして効果的であったかどうか

人数の変容を分析する。

ウ 意見交流が、合理的意志決定に効果的であったかどうかの検証

意見交流を経て、最後は個人で理由や根拠を明確にして合理的意志決定をする活動を取り入れる。そして、三つの題材を取り扱う前後でアンケート調査を行い、意見交流が合理的意志決定を行う手立てとして効果的であったかどうか人数の変容を分析する。

エ 合理的意志決定が、理由や根拠に基づいて思考・判断したものになっているかどうかの検証

各題材の終末で行った合理的意志決定が、理由や根拠に基づいているかどうかを、生徒が記述した理由や根拠の内容から検証する。

題材①では、マンションの騒音問題の解決策とその理由、題材②では、マンションの防犯カメラの設置について賛成か反対の立場とその理由、題材③では、むつ市のまちづくりのアイディアとその理由や根拠について、生徒が記述した内容の変容を検証する。

2 研究の実際

(1) 検証のための題材と研究内容との関連

検証のための各題材の学習の流れと評価規準・評価基準については以下のとおりである。

	題材① マンションの騒音問題の解決策について考えよう	題材② マンションの防犯カメラの設置について考えよう	題材③ むつ市のまちづくりのアイディアを考えよう
ベン図で整理	 <ul style="list-style-type: none"> 前時に自分の立場と状況について確認する。 それぞれの住人の立場に分かれて解決策を考える。(個) 	 <ul style="list-style-type: none"> 提示した資料の住人の意見を分類する。(個) 賛成か反対の立場を決め、理由を考える。(個) 	 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考えたアイディアを分類する。(個)
意見交流	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で出た解決策をベン図で整理し直す。 最も良い解決策を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由について話し合い、グループ内で賛成か反対かを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出し合ってグループのベン図に整理し直す。 住民と行政が協力してできるアイディアについて話し合う。
合理的意志決定	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの解決策を基に、自分が考える解決策を、理由を明確にして決める。(個) 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの意見を基に、自分で賛成・反対・中立の立場を、理由を明確にして決める。(個) 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの意見を基に、自分が考えるむつ市のまちづくりのアイディアを、理由や根拠を明確にして決める。(個)
評価規準	マンションの騒音問題の解決策について、理由を明確にして合理的意志決定ができる。(思考・判断・表現)	マンションの防犯カメラの設置について、犯罪防止とプライバシー保護の視点から考え、理由を明確にして合理的意志決定ができる。(思考・判断・表現)	むつ市のまちづくりのアイディアについて、住民とむつ市が協力してできるアイディアを、理由や根拠を明確にして合理的意志決定ができる。(思考・判断・表現)
評価基準	A 対立と合意、効率と公正の考え方を基に、二つ以上の理由を挙げて解決策を考え、合理的意志決定をしている。	犯罪防止とプライバシー保護の視点を考慮し、二つ以上の理由を挙げた上で立場を決め、合理的意志決定をしている。	地方自治の学習内容とむつ市の政策に関する資料を基に、理由や根拠を二つ以上挙げ、合理的意志決定をしている。
	B 対立と合意、効率と公正の考え方を基に、一つの理由を挙げて解決策を考え、合理的意志決定をしている。	犯罪防止とプライバシー保護の視点を考慮し、理由を一つ挙げた上で立場を決め、合理的意志決定をしている。	地方自治の学習内容とむつ市の政策に関する資料を基に、理由や根拠を一つ挙げ、合理的意志決定をしている。

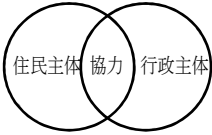
(2) 題材③の授業略案

ア 題材名 むつ市のまちづくりのアイディアを考えよう

イ 題材③の目標

むつ市のまちづくりについて、住民と行政が協力してできるアイデアを、意見交流を基に、理由や根拠を明確にして合理的意志決定ができる。

ウ 題材③の展開

段階	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	◎評価 □形態 ・留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・むつ市のまちづくりのアイデアを確認。 ・むつ市人口ビジョンとむつ市総合戦略の全体像の基本目標を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特産物を使った商品開発。 ・子育てボランティアなど。 ・転入者を増やし、転出者を減らそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や統計資料、広報誌を参考に考えておく。 ・むつ市の現状を示す数値と目標数値から、むつ市が目指すまちづくりを読み取る。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">むつ市のまちづくりのアイデアを考えよう。</div> <p>[ベン図の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むつ市のまちづくりのアイデアを付箋とベン図を用いて分類させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の見通しをもつ。 <div style="text-align: center;">  </div>	<p>□個人</p>
	<p>[グループの意見交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で分類したベン図を持ち寄り、グループのベン図を完成させる。 ・グループで分類したアイデアを発表し合い、一つのベン図にまとめる。 ・協力してできるアイデアを一つ選び、住民と行政の立場でできることを考えさせる。 ・グループで話し合った内容を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で分類したベン図を基に、理由や根拠を話し合いながら作成する。 ・住民主体、行政主体、協力にそれぞれ分類したアイデアを発表する。 ・(例) 子育てボランティア 住民→遊具製作や事前学習 行政→会場提供、PR活動 	<p>□グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を挙げながら分類するようアドバイスする。 <p>□グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や資料を用いて根拠や理由を挙げて考える。
まとめ	<p>[合理的意志決定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出たアイデアの中から自分がよいと思ったものを選びさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を参考に、自分でよいと思ったアイデアを理由や根拠を明確にして決める。 	<p>◎評価 1 (思考・判断・表現) ワークシート記述、意見交流の様子</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) 子育てボランティア… (理由) むつ市の現状は子育てをしやすいと思っている保護者は 34%くらいしかいないので、もし私たちが土曜日や日曜日だけでもボランティアで協力できれば、子育てをしやすいと思う人が増えると思うから。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートとアンケートの記入をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートとアンケートを書き込む。 	

3 考察

(1) ベン図と合理的意志決定について

図1は、各題材終了後に行ったベン図に関するアンケートの結果である。題材①終了時は、ベン図が自

分の意見を整理する時に役立ったと「あまり思わない」「思わない」と回答していた生徒が6名いた。理由は「面倒くさい。」「やったことがないのであまりよく分からない。」など、ベン図を初めて使ったことに対する戸惑いを挙げているものが多くあった。しかし、題材③終了時でのアンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」とする肯定的な回答を全生徒がしていた。理由として、「自分の考えを工夫して書くことができたしベン図も役に立ったので良かった。」「自分と相手の意見の同じ点や違う点を比較できた。」等が挙げられていた。生徒はこれまで、ベン図を使って自分の意見を整理した経験がなかったが、三つの題材で繰り返し行ったことで、自分の意見を組み立てたり、論理付けたりしやすかったという成功体験が積み重なり、ベン図に対する肯定的な印象につながったと考えられる。

図2は、各題材終了後、ベン図が意見交流に役立ったかどうかのアンケート結果である。題材①を扱った時から題材③を扱った時にかけて大きな変化は見られないが、80%以上の生徒がベン図は意見交流の際に役立ったと回答した。自由記述には「グループ内でも意見を積極的に発表していたし、話し合う内容を理解してまとめていたのが良かった。」「自分の意見を積極的に発表できたし、一人一人が自分の意見を言ったり反論したりしていた。」「自分には思いつかなかった意見を出して参考になったし、たくさん考えを出し合った。」等という記述が見られた。これらは、ベン図によって自分の意見を整理することができ、意見交流においても自信をもって自分の意見を発表できたからだと考えられる。また、他者の意見に耳を傾けることができるようになり、自分の意見との比較がしやすかったこと等の理由も考えられる。

しかし、三つの題材をとおして「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒は、4～5人とほぼ変化がなく、特定の生徒が同じ回答をしていた。理由は、

「自分の意見をきちんと決めることができず、比較できなかつた。」といった、教師側が考える視点が分かっているのかを確認しなかつたこと、活動中の支援の手立てが十分でなかつたことが原因と考えられる。

図3は、題材③の授業で個人毎に作成したベン図である。事前に自分たちで考えていたむつ市のまちづくりのアイデアについて、付箋を使って住民主体でできるもの、行政主体でできるもの、協力してできるもの三つに分類した。生徒は、ベン図によって自分の意見が整理され、その後のグループでの意見交流では、分類したものをお互いに持ち寄って意見交流ができていた。また、話し合いに行き詰まった時にはアイデアを分類したベン図に立ち返って確認している様子も見られた。

(2) 社会的なものの方や考え方について

図4は、意見交流によって合理的意志決定がしやすかつたかどうかについて、三つの題材を取り扱う前と後のアンケート結果である。実施前後で特に大きな変化は見られなかつたが、意見交流は自分の考えをまとめるのに役立つと「あまり思わない」「思わない」と否定的な回答した生徒が、実施後には0人となった。

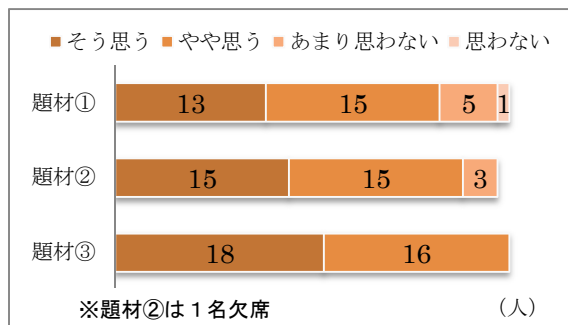


図1 ベン図は自分の意見を整理する時に役立ったか

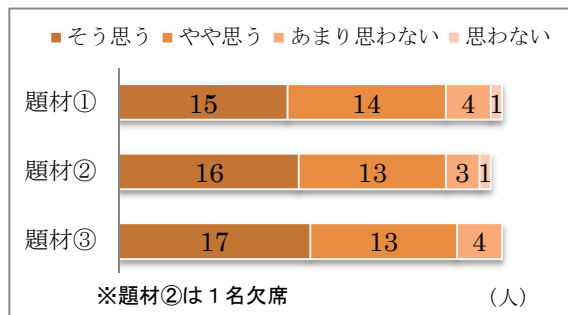


図2 ベン図は意見交流をする時に役立ったか



図3 個人で作成したベン図

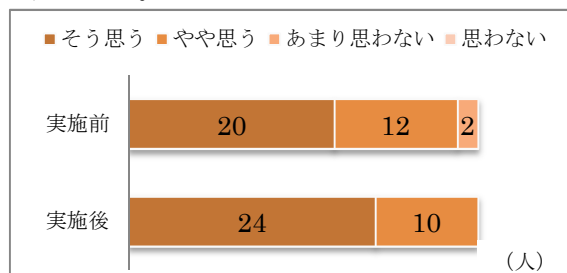


図4 意見交流は自分の考えをまとめるのに役立ったか (合理的意志決定に役立ったか)

理由としては、「問題の解決策をお互いの意見を基に考えることができた。」「それぞれの意見の利点と欠点を整理することができた。」「他の人の意見も聞けて考えが深まった。」等が挙げられていた。意見交流をとおして様々な見方や考え方に触れたことで自分の考えが深まり、理由や根拠を明確にした合理的意志決定へとつながったと実感した生徒が多かったため、肯定的な回答が増えたと考えられる。

図5は、各題材の終末で行った合理的意志決定で挙げられた理由・根拠について評価した結果である。題材①での評価基準Aの生徒は6人だったが、題材③終了時には16人となった。これは、手順が確立されたことによって、考える方法が身に付いたからであると考えられる。

題材①では、自分の立場や、効率と公正のどちらかの視点を優先した理由を一つ挙げる生徒が多く、別の立場に立ったり意見交流から自分の考えを深めたりした上で複数の理由を挙げる生徒は少なかった。

題材②では、ベン図を活用して自分の考えを整理したり意見交流をとおして自分の考えを深めたりすることにも慣れ、題材①で評価基準Cの生徒も少しずつ理由を挙げて合理的意志決定ができるようになった。

題材③では、むつ市という身近な題材で考えやすかったこともあるが、地方財政や町おこしというこれまでの学習内容を基にしたものや、むつ市の人口や財政などの現状・課題を踏まえたものなど、複数の社会的事象に対する見方や考え方が含まれる記述が多く見られた。

図6は、題材①と③で挙げられた理由・根拠についての個人評価の変容を示したものである。題材①と③のいずれも評価基準Aの生徒は5人だった。題材①で評価基準B・Cから、題材③で評価基準A・Bに上がった生徒は16人で、約47%の生徒の記述内容に変容が見られた。図7・8は実際の記述である。

図7に示した生徒は、題材①では理由を具体的に挙げることができず評価基準Cだったが、題材③では、「むつ市で婚活を促す取組をする」というアイデアに、「結婚する人が増えることで出生率が上がると思う。」「あとは、子供が安心して暮らせるようになれば、出生率はずっと上がると思う。」など、むつ市の現状を踏まえた複数の理由を挙げるようになった。

図8の生徒は、題材①では公正の視点から一つだけ理由を挙げていた。しかし題材③では、高齢化という自分の生活との関わりで考えた記述をしていた。このことから、様々な具体例を基に、自分の意見を整理し、意見交流を経て、合理的意志決定をする活動を繰り返し行ったことによって、生徒には徐々に社会的なものの見方や考え方を働かせることができたのではないかと考える。

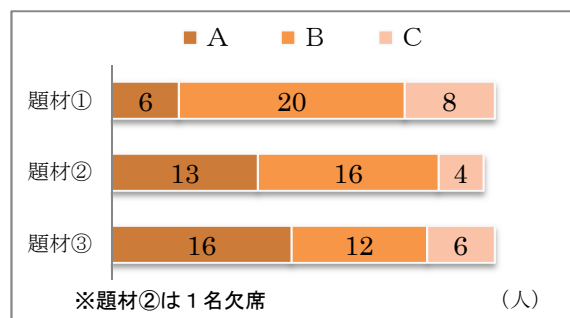


図5 合理的意志決定で挙げられた理由・根拠についての評価結果

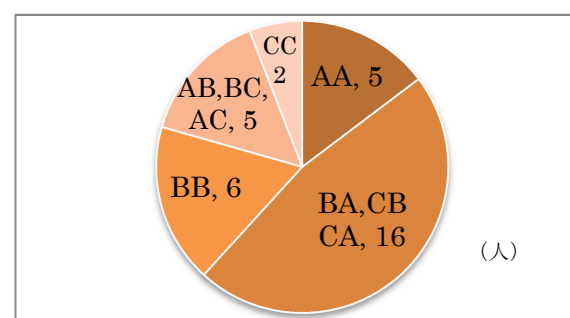


図6 題材①と③で挙げられた理由・根拠についての個人評価の変容

題材① 騒音問題の解決策を選んだ理由 (C評価)

契約書を書かせよ。
そそでしないて守らぬと思うが。

題材③ まちづくりのアイデアを選んだ理由 (A評価)

(理由)
この市を、かたして、結婚する人が増えることにより出生率が上がり、合計特殊出生率も上がっていくと思う。
それは、子どもが安心して暮らせる市にしていくこと、出生率はもっとも上がっていくと思う。

図7 生徒の記述内容 (生徒A)

題材① 騒音問題の解決策を選んだ理由 (B評価)

契約書に同意するということ、一人一人の権利を認めることからの。

題材③ まちづくりのアイデアを選んだ理由 (A評価)

(理由)
高齢化による人口減少。
せにも、近所どうしでも、コミュニティが
あってもいいから、互いに助け合おう。
人口も減るからいいから。

図8 生徒の記述内容 (生徒B)

V 研究のまとめ

ベン図を活用して自分の意見を整理し、意見交流を経て、理由や根拠を基に合理的意志決定をする活動に繰り返し取り組んだことで、生徒は自分の意見を持つことができるようになり、以前よりも少しずつ社会的な見方や考え方を働かせることができるようになってきた。また、意見交流の場を設定することで、自信をもって自分の意見を表現できるようになり、自然と他者の意見に耳を傾けて自分の意見を深めたり他者の意見と比較したりするなど、話し合いの質的向上につながったと考えられる。

今回使用したベン図は、比較・分類に向けた思考ツールである。考える視点や立場を明確にすることで、生徒は自分の意見を整理し、意見交流では他者の意見と比較することが容易になり、理由や根拠を明確にした合理的意志決定につながったことを考慮すると、他にも様々な題材や教科で活用できる。

VI 本研究における課題

三つの題材を終えて、評価基準Cのまま変容が見られなかった生徒や、自分の考えをベン図に整理できず思うように意見交流できなかった生徒もいた。教師側が授業の流れや活動の手順についてきちんと確認し、生徒が一層見通しをもって取り組めるような手立てを講じる必要があるであった。例えば、検証前にベン図の使い方を学ぶための時間を取ったり、手順をあらかじめ配付し、ノートに貼っておいたり等の手立てが考えられる。

また、思考ツールは、生徒の思考を深めたり意見交流を活発に行ったりするための手段として、非常に有効であったと感じた。ベン図以外にも様々な特性をもった思考ツールがあるので、社会科はもちろんのこと、他の教科でも思考ツールを活用していくことで、生徒の思考を深めていくことができるようにしたい。社会的なものの見方や考え方は、数回の授業で身に付くものではないので、教師側が授業の中で意図的に取り扱う場面を設定して計画的に指導する必要がある。そのためにも、どんな思考ツールを使うのか、どんな立場や視点で考えさせるのか、何について意見交流させるのか、最終的にどんな合理的意志決定をさせるのか等を考え、年間指導計画や単元指導計画に盛り込んでいくことが大切である。

<引用文献>

- 1 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 社会編（平成20年9月）』
- 2 北俊夫 1996 『「生きる力」を育てる社会科授業』, pp. 21-22, 明治図書
- 3 森分孝治・片上宗二編著 2000 『社会科重要用語300の基礎知識』, p. 69, 明治図書
- 4 岩田一彦・米田豊編著 2009 『中学校社会科「新教材」授業設計プランー新旧比較で授業はこう変わるー』, pp. 15-16, 明治図書

<参考文献・URL >

- 1 黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕 「シンキングツール～考えることを教えたい～（短縮版）」
http://www.ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf (2016. 12. 21)
- 2 『社会科教育6月号』 明治図書
- 3 『初等教育資料 平成27年5月号』 東洋館出版社
- 4 帝国書院HP「中学校の先生のページ 法教育素材集」
https://www.teikokushoin.co.jp/teacher/junior/ko_index.html (2016. 12. 29)
- 5 法務省HP「私法分野教育の充実と法教育の更なる発展に向けて」
http://www.moj.go.jp/shingil/kanbou_houkyo_kyougikai_shiryoutop.html (2016. 12. 29)